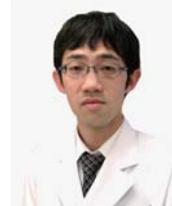


平成24年7月より
スタートしました

病棟薬剤業務



薬剤部 阿部 記史

皆さん、私たち薬剤師は病棟においてどのような仕事をしているかご存知でしょうか？

松山市民病院薬剤部では、医師をはじめとする医療スタッフの負担軽減とチーム医療の一員として患者さんへの治療参画を目的とし病棟薬剤業務を本年7月より本格的にスタートさせました。各病棟に薬剤師が常駐し、下記の病棟業務をお



こなっています。医師・看護師等と協働することで、今まで以上に医療の質の向上及び安全で有効な薬物療法への貢献が出来るものと考えています。

病棟での業務は、右表のとおりです。そのほかにも、抗がん剤やTPN輸液等の適切な無菌調製や院内での医薬品管理業務など幅広く活動を行ないます。

日常生活の中で、薬は病気の治療や予防そして、健康の維持に欠かせないものとなりました。正しく使うことで初めて十分な効果を得ることができますが、誤った使い方をすると逆効果になってしまう場合もあります。そのため患者さまにとって『クスリ』が患者さまにとっての『リスク』とならないように、薬の専門家である薬剤師が安全な医療が提供できるように取り組んでいきます。また、患者さんに適切な薬の情報提供をおこない有効性、安

全性、注意事項などをしっかり理解していただくことで、安心・安全な治療を受けていただけるように日々の業務に努めてまいります。身近に薬剤師がいることを知っていただき、薬について不明・疑問な点があればお気軽にお声かけ下さい。

【病棟での薬剤業務】

- ①入院された患者様の背景および持参薬管理の確認とその評価に基づく処方設計と提案
- ②患者状況の把握と処方提案
- ③医薬品の情報収集と医師、医療スタッフへの情報提供
- ④薬剤に関する相談体制の整備
- ⑤多職種との連携
- ⑥医薬品の投与・注射状況の把握
- ⑦投薬以降における薬学的管理を目的とした薬剤管理指導業務
- ⑧副作用等による健康被害が発生した時の対応

海外出張報告

ESC congress2012に参加して

～Munich, Germany 25-29, Aug, 2012～



循環器内科 吉田 雅言



8月24日、私は成田空港にいました。縁あってEuropean society of cardiology congress 2012という学会(ESC=ヨーロッパ心臓病学会)に参加させてもらうことになり、ミュンヘンに向かうためです。私とあまり年代の変わらない医師5人と私の6人が同じツアーに参加しています。自前の発表やポスターなどがあればもっとよかったのですが、今回は聴講のみでした。ただ、会期の5日間ずっと会場にいてひたすら聴講、内容は当然英語、観光は最終日のみ、という『修行』のようなスケジュールでした。

最初は自分のもっとも興味のある冠動脈疾患に関する演題を中心に聴講していましたが、心不全・不整脈・抗血小板療

法の新しい薬について、などに始まり、Marfan症候群などの大血管疾患、珍しい症例提示など、いろいろな分野のことを聴講させていただきました。そんな中、会場ではビールが売られ、会場中庭の芝生に転がっている医師(と思われる)集団もありましたが、それを横目に見ながらビールも飲まずに聴講です。

そんな中で感じたことは、日本と欧米諸国では医療をとりまく環境が異なっており、日本は自国データからのエビデンスやガイドラインを発信していく必要がある、ということだと思います。虚血性心疾患のようなメジャーな疾患においてはその治療方針や予後、治療に対して工夫したことなどの分析を、逆に稀な疾患についてはその報告と考察を、学会や論文を通じて多くの人に発信する必要があると思います。自分にできることは少ないですが、患者さんに対して真摯な姿勢で臨み、治療方針を決め、その結果(いい結果であっても残念ながらよくない結果であっても)を結果のみで終わりにせず次の治療へ生かすためのデータとしてまと

め、蓄積していくことが、その第一歩となるかと感じました。

もちろん修行のみでは精神的に参ってしまいます。夜はビールやワイン、ドイツ料理をしっかり堪能しました。そのおかげで自分と年齢が近い他施設の医師たちがどんなことを考え、どんなことを行っているのか知ることができ、大変よい刺激になりました。この経験が自分のため、自分が接する患者さんや当院スタッフのためになるよう、これからも日々精進していきたいと思っています。最後に、人員の少ない当科でありながら渡航を許可してくれた上司と、一週間にわたり家を留守にすることを許してくれた家族に感謝したいと思います。本当にありがとうございました。

マリエン広場

